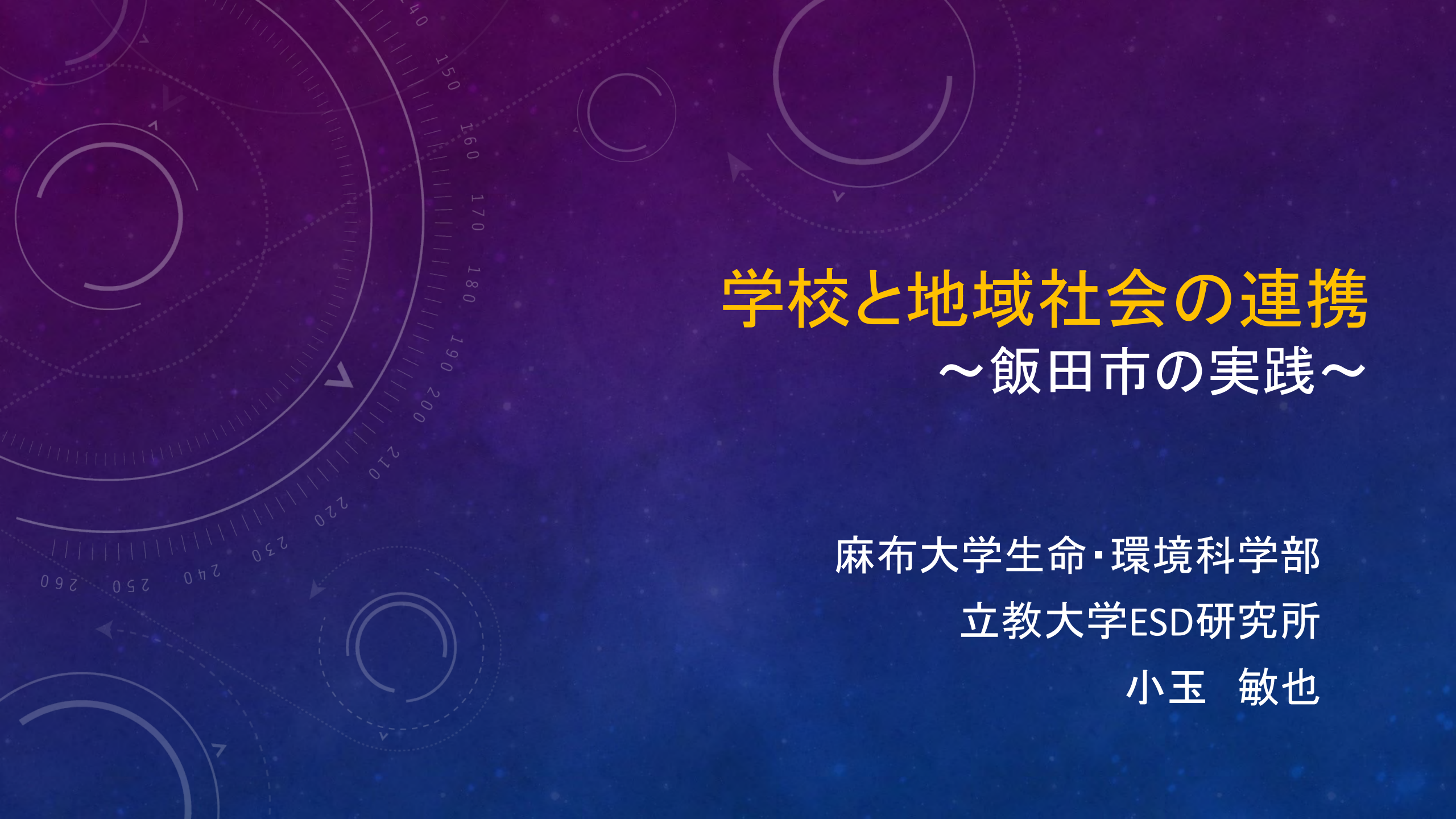




学校と地域社会の連携

～飯田市の実践～

麻布大学生命・環境科学部
立教大学ESD研究所
小玉 敏也

OUT LINE

1. 「学校と地域の連携・協働」のポイント
2. 遠山郷ESD推進プロジェクト
3. 学校によるESD実践～〈つながる学び〉
4. 地域まるごとESD実践～〈連鎖する学び〉

「学校と地域との連携・協働」のポイント

1) 学習指導要領

- ・「社会に開かれた教育課程」「家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携」

2) 関連施策

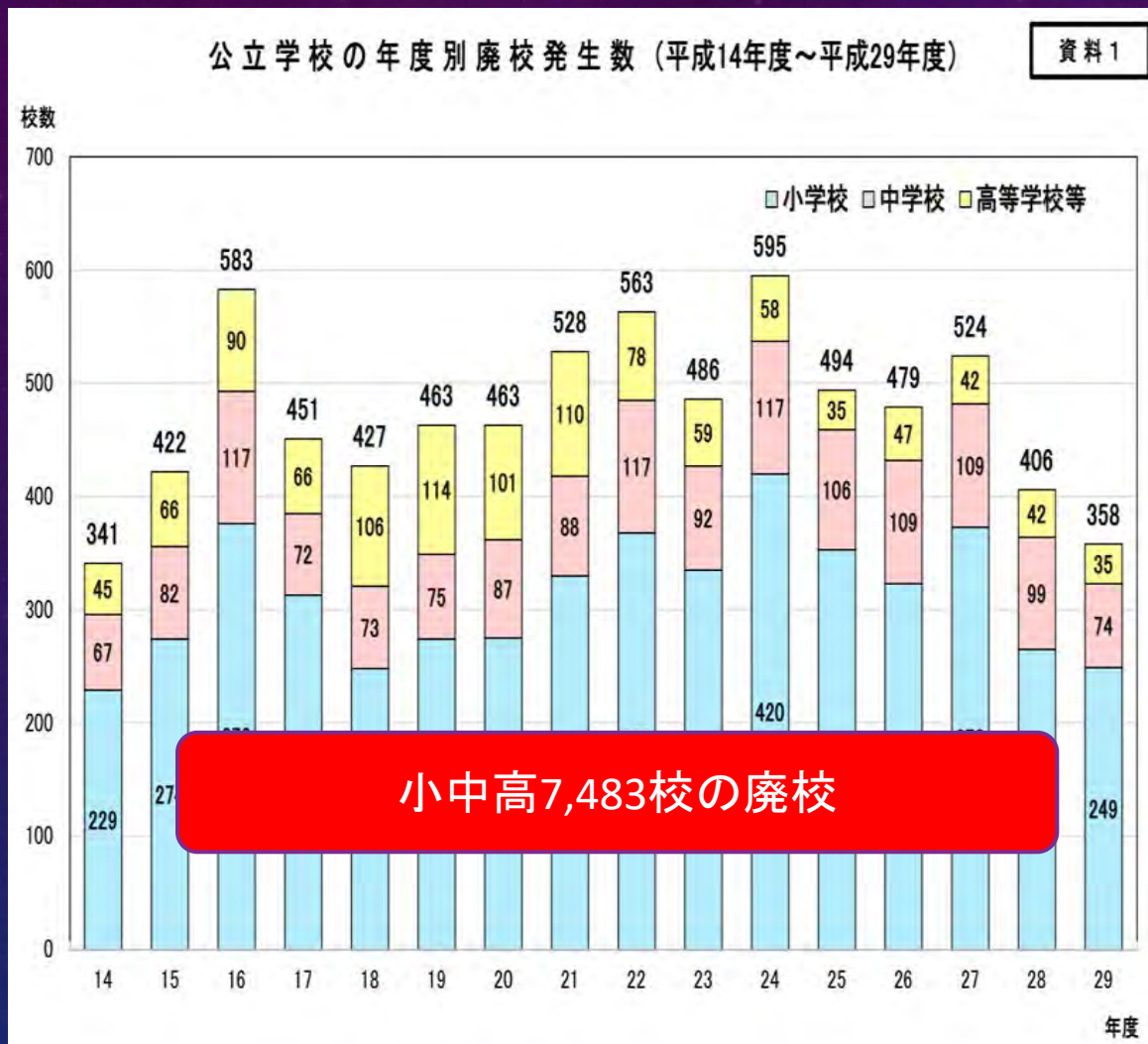
- ・「地域との協働による高等学校教育改革の推進」
- ・「大学と地域の連携の促進」

3) 『ESD推進の手引き』(2018)

- ・「自治体・地域の課題を把握する」「地域の持続可能性に対する理解」

地方の「廃校」問題

©文部科学省



■「廃校」の影響

- ・子どもの声が消える
- ・子育て世代が入らない
- ・地域そのものの消滅

■学校が取組む実践

- ・児童生徒数増加への手立て
- ・地域への愛着と誇り
- ・地域活性化の取組み

ESD→「地域の持続可能性」の課題化

遠山郷の概要(2018年当時)

- ・約1800人 (←飯田市人口約10万人)
- ・リニア新幹線開業(2028年?)
- ・三遠南信自動車道開通(2030年?)

■ 産業

- ・農業、林業、観光業etc

■ 課題

- ・人口減少、高齢化、地域産業の衰退

■ 上村地区(416人)

- ・上村小学校(9人)、上村中学校→廃校

■ 南信濃地区(1433人)

- ・和田小学校(46人)、遠山中学校(32人)



遠山郷の地域資源

南アルプス・エコ/ジオパーク



<https://main-jbrn.ssl-lolipop.jp/info/minamialpus/>

霜月祭 (国重要無形文化財)

<https://shimotsukimatsuri.com>



MAB戦略(2015-2025) 目標3

- ・生物保存地域では～地域レベルにおいてESDの運用を可能にし、主流化する主要な役割を担う
- ・ESD活動が、全ての生物圏保存地域において市民社会のあらゆるパートナーシップを含めて行われる。生物保存地域は、モデルを普及させるESDの拠点の役割も果たす

2022/5/29

6

遠山郷ESD推進の体制構築(2018～)

ESD地域創生拠点研究会

- ・立教大学ESD研究所
 - ・企画課
 - ・環境課
 - ・移住定住推進課
- ・教育委員会(学校教育課)
- ・教育委員会(公民館)



遠山3校のESD促進

信州やま保育の充実

「教育移住」の推進

飯田市立上村小学校

■ 学校運営方針

- ・SDGs目標11の活用
- ・小規模特認校(市街地から通学)
(2018年:9人→2021:18人)

■ 先進的な教育活動

- ・歌唱・劇等の「表現力」の育成
- ・信州大学の支援によるICT活用
- ・自由進度学習への挑戦



11 住み続けられる
まちづくりを





飯田市立和田小学校

- 「Welcome tea project」
 - ・児童が栽培したお茶を市役所で販売
- 東京都の高校との遠隔授業
 - ・伝統文化の紹介、英語の授業
- 長野県すみっこクラブ
 - ・県内の中山間地の学校とのICT遠隔授業
- 教育移住促進のチラシづくり
 - ・東京郵便局から都内の子育て世帯に配布
- 『親子留学』制度の導入(2022～)
 - ・3家庭5人の転入。38名から増加。

「持続可能な和田小学校」





「持続可能な生徒会活動」



飯田市立遠山中学校

■ 伝統文化の継承

・『霜月祭り』伝統の舞→博報賞(2019)

■ 全校学有林學習

- ・学有林整備・植樹
- ・絶滅危惧種保護

■ 生徒会活動

- ・SDGsを指針とした活動
- ・地域との交流

■「第1回絆プロジェクト」(2020～)

・住民と「遠山郷の未来」を語り合う

@遠山中学校・飯田市・中日新聞

遠山3校の教員定例会(2020～)

■ 目的

- ・3校のESD推進に係る情報交換と課題解決

■ 構成員

- ・管理職・教員代表・市教委指導主事・研究所

■ 議論の内容(9月～月1回開催)

- ・3校の取組み交流
- ・小中連携のあり方(総合的学習の教育課程)
- ・遠山郷ESDの方向性



基盤：遠山三校の小中一貫教育

「持続可能な遠山郷実現に向けた取組」の開始(2020)



飯田市遠山通学区 小中連携一貫教育 「郷土を愛し、社会の一員として自立した生活のできるこどもの育成」を目指す取り組み

令和2年度の重点 その① 持続可能な遠山郷の実現に向けた取り組み

活動の目的：遠山地区は、児童・生徒の人口が急激に減少している地域である。将来この地域の学校が存続し、地域の未来が明るく持続可能なものとなることを目指して取り組む。そのために、**遠山地区の人・自然・文化を学び、学んだ成果や地域の良さを発信すること**で人を招き、自身も将来の地域を支える人材となることを目指した教育を、小中学校と地域が連携しておこなう。

各校の取り組み





「和田宿にぎやかし隊」発足(2018~)

■ 目的

- ・地域の実践と学校教育を広く大らかに結ぶ
- ・ユネスコスクール加盟支援

■ メンバー

- ・地域住民(保護者、商店主、協力隊etc)

■ 活動

- ・街道縁日(商店街活性化イベント)
- ・寺子屋(ゲスト:学校教員、地域住民、ICT関係、映画上映)
- ・休業中の学習活動支援(自磨時間・ESD塾)
- ・婚活事業
- ・交流人口を増やすための各種事業

©ワダパゴス

みんな見聞録



遠山郷の南信濃地区
保育園、小学校存続危機

南信

諏訪市上郷小6年
夢は、かんご師です。
理由は、お母さんが、
かんご師だからです。
また、人や世の中の役



にたったり、人を笑顔
にしたり、喜ばせたり
したいからです。この
ような理由から、かんご
師の夢をもち、かんご
師だと言います。

地域一丸移住実績重ね

全国の中山間地で人口減
ものが存続できないかもし
少が問題となる中、飯田市
・遠山郷の南信濃地区で
は、地区内唯一の和田保育園
と和田小学校の存続が危
ふまれている。子どもたち
がいなくなれば、地域その
飯田市の中心部から最も

離れ、深い山々に囲まれた
南信濃地区。一九五五年に
約六千五百人いた人口は、
今年十一月末時点で千二百
七十四人にまで減少した。
さつに今年三月、自治組
織の南信濃まちづくり委員

会が第二次基本構想に盛り
込んだ現実が、地域に衝撃
を与えた。このまま移住
者がなければ、保育園は四
年後、小学校は九年後に
児童数がゼロになる。

そんな地区の現状を見て
行動に出たのが、和田小に
昨年赴任した大池調校長
(左)。前々任の伊那市新
山小学校で特色ある教育を
展開し、子どものために家
族で移住する「教育移住」

を推やした経験があった。
「まずは地域が一つになる
必要がある」と、移住に特
化して定期的に議論する組
織づくりを呼び掛けた。
応じたのは、保育園長や
中学校長、地域の代表、市
議員、若者など、世代も立
場も離れた住民ら。定住人
口千五百人を目標し「一五
〇委員会」と名付けた。

十一月五日の昼下がり。
十一月五日の昼下がり。
十一月五日の昼下がり。



を増やした経験があった。
「まずは地域が一つになる
必要がある」と、移住に特
化して定期的に議論する組
織づくりを呼び掛けた。
応じたのは、保育園長や
中学校長、地域の代表、市
議員、若者など、世代も立
場も離れた住民ら。定住人
口千五百人を目標し「一五
〇委員会」と名付けた。

十一月五日の昼下がり。
十一月五日の昼下がり。
十一月五日の昼下がり。

十一月五日の昼下がり。
十一月五日の昼下がり。
十一月五日の昼下がり。

南信濃1500委員会 (2019~)

■目的

・南信濃地区の定住人口を1500人にするための取組みの検討

■設立の背景

・和田保育園/小学校の存続の危機

■構成員

・公民館長、まちづくり委員、保育園長、小中学校校長、和田宿にぎやかし隊、地域おこし協力隊員

■協議内容

・関係人口の増加、教育移住の促進、保小の合同行事、学校と地域の連携

©中日新聞

2022/5/29

14



「遠山郷探検隊」の発足と活動(2020～) ©遠山郷探検隊

- ・遠山郷出身者(20代)によるプロジェクト
- ・自然体験活動等のツアービジネス化
- ・まちづくり委員会への提案

遠山郷フォーラム

～未来へ向けて『つながる』郷づくり～



当地域における人口減少は大きな課題で、特に園児・児童・生徒の減少が顕著で影響が大きいことが想定されます。住み続けられる地域づくりを進めていくうえで、地域を支える人材の育成が重要になります。遠山郷の特徴を活かし、地域に愛着をもった地域の担い手を育成していくためにも、両地区の様々な取組について、同じ目的に向かって連携しながら進めていくことが大切ではないでしょうか。キーワードは『つながり』。活動のつながりはもちろん、保育園、小学校、中学校、地域のつながり、遠山郷の内と外とのつながり等、様々なつながりから可能性が生まれます。

当フォーラムでは、両地区の若者達の地域活動や思いを共有するとともに、『つながり』の在り方や可能性について考え、遠山郷が一丸となり、さらに推進力をもって動き出せる機会として開催いたします。

日にち 令和3年2月28日(日)

時間 13時30分～15時30分(予定)
(受付:13時から)

場所 上村小学校体育館



※お車は交通誘導の指示に従い、グラウンドへ駐車してください。



「遠山郷フォーラム」(2021) まちづくり委員会・公民館主催

- **趣旨**:「遠山郷出身の若者が、活性化の取組みを通じて、地域の魅力や可能性について語る」
- **参加者**:地域住民、中学生(生徒会)、小中学校管理職、まちづくり委員、飯田市長
- **キー発言**
 - ・「未来へのバトンパス」(委員長)
 - ・「遠山郷は一つ」(主事)
 - ・「**あんな人たちになりたい!**」(中学生)

日本学術会議主催学術フォーラム「持続可能な社会を創り担うための教育と学習のチャレンジ」

第1回絆フォーラム

(2021.3.14: 公民館+中学校)

- **趣旨**: 「中学生と地域住民が遠山郷の未来を語り合う」
- **参加者**: 2年生(生徒会)、地域住民、若者、高校生、中1・3
- **内容**: 中学生による企画・運営

①アイスブレイク

②ワークショップ

- ・遠山郷について思っていること
- ・遠山郷の価値と課題
- ・個人や団体で取組めること

③決意表明→「絆の木」

④合唱

日本学術会議主催学術フォーラム「持続可能な社会を創り担うための教育と学習のチャレンジ」



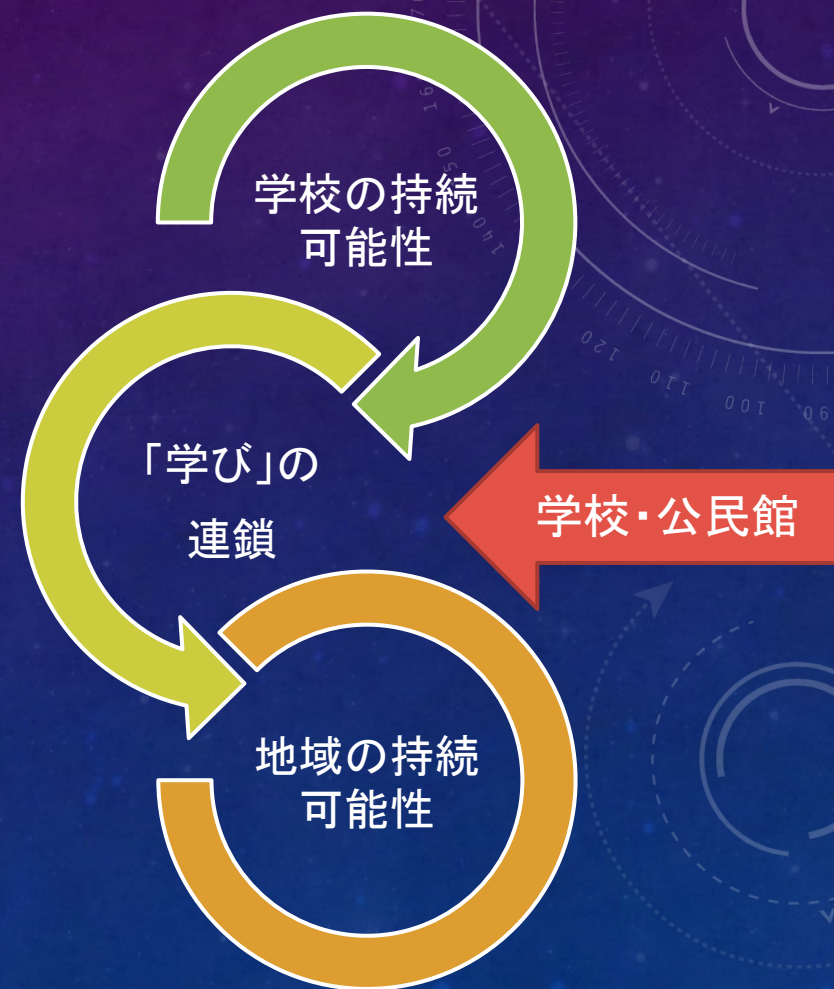
遠山郷ESD推進プロジェクトの成果と課題

▶ 成果

- 学校と公民館を拠点としたESD実践
- 地域住民間での「学び」の連鎖
- 若者をモデルとした中学生の成長

▶ 課題

- 学校でのESD実践を継続していくこと
- 人口減少の速度と地域活動の広がりとの差



ご静聴ありがとうございました